



病害虫防除情報



平成28年11月29日
埼玉県病害虫防除所

1 情報名 冬期におけるナシの病害虫対策について

2 情報内容

(1) 気象要因等について

11月24日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されています。

(2) ナシの病害対策

(ア) ナシの輪紋病及び胴枯病

ナシの輪紋病は枝に生じたこぶ病斑で越冬します。2~5年生の枝の病斑上では、数年間にわたって胞子が形成されます。この胞子が幼果実から侵入し被害を与えます。

また胴枯病は枝の切り口から侵入しますが、樹皮の皮目や小さな枯れ込みからも侵入することがあります。若い枝では、はじめ水浸状、暗褐色の病斑が広がり、後に枯れて陥没し赤褐色の病斑となります。

対策ですがどちらの病害も、病斑に胞子が形成され伝染源となりますので、剪定時に、病枝を必ず取り除いてください。剪定できない太い枝の病斑は削り取ります。このときに境界部では木質部に達しない程度に浅く削ってから薬剤を塗布します。なお剪定の傷口も同様に処理します。



輪紋病のこぶ病斑
(樹皮上にこぶ状の突起を生ずる)



胴枯病の病斑
(赤褐色の楕円形病斑)

表 輪紋病及び胴枯病の塗布薬剤例

薬 剤 名	F R A C コード	対象病害	使用時期	使用回数
トップジンMペースト	1	輪紋病 胴枯病	剪定整枝時及び病 患部削り取り直後	3
[D I C]ベフラン塗布剤 3	M 7	胴枯病	せん定時及び病 患部削り取り直後	2
バッチレート	*		剪定時及び病 患部 削り取り直後	3

(使用基準は平成28年11月29日現在)

* 未分類 (農薬の種類は、有機銅塗布剤)

(イ) ナシの黒星病

本病原菌は、胞子を形成する他、枝には丸く、周囲が盛り上がった病斑を生じます。胞子が伝染源になりますので、落ち葉や剪定枝は、園外で適切に処分し越冬伝染源を低下させることが重要です。

(3) ナシの害虫対策（粗皮削り）

落ち葉の処分、り病枝の切除及び粗皮削りは、次の害虫防除のために有効な対策です。翌年の被害軽減のため管理に努めましょう。



黒星病の枝の病斑
(円形で盛り上がる)

ア ナシヒメシンクイ

枝幹の間隙に繭を作り、老熟幼虫で越冬します。

イ コナカイガラムシ類

粗皮の間隙や剪定の切り口などに、卵のう内の卵塊で越冬するものや粗皮下や樹皮の裂け目に幼虫で越冬するものがあります。

ウ サビダニ類

芽の鱗片や毛茸内、表皮の間隙、粗皮下などに、雌成虫で越冬します。

エ ハダニ類

表皮の間隙、粗皮下のほか落ち葉などにも雌成虫で越冬します。

3 I R A C コード及びF R A C コードの記載について

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、I R A C (世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会) 及びF R A C (同連盟殺菌剤耐性対策委員会) の農薬有効成分作

用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/lab0/mechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 6 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/a0907/index.html>

問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 T E L : 0 4 8 - 5 3 9 - 0 6 6 1